



学位記授与式



平成二十九年度の大学・大学院・短期大学の学位記授与式が三月二十日、レクザムホール（香川県県民ホール）で行われ、大学・大学院・短期大学二百七人が学び舎を巣立つ。今年度も就職状況は好調で、香川県等の公立小学校に大学発達科学部から現役・既卒を併せて七名が合格した。また、公立幼稚園・保育所においては、大学発達科学部、短期大学保育学科ともに多数合格しており、大学経営学部、短期大学秘書科をはじめとする企業等への就職も併せ、四月から新たなスタートを切る。

卒業生を代表して学位記を高橋拳斗さん（発達科学部）、近藤正利さん（大学院）、大塚葉さん（保育学科）が佃昌道学長から受け取る。

また、木村未奈さん（発達科学部三年）、阿部紗梨奈さん（秘書科一年）が送辞、谷茜さん（経営学部）、好永梨花さん（秘書科）が謝辞を述べる。

引き続き、同窓会入会式も行われ、卒業生代表として、溝田優一さん（経営学部）と和泉彩さん（保育学科）が大学・短大の同窓会長に挨拶を行う。

式後には卒業記念パーティーが催され、恩師や学友と最後のひと時を過ごす。

香川県医師会と医療秘書養成に関する協定締結



昨年九月五日、香川県医師会と高松短期大学との医療秘書養成に関する協定書の調印式があり、

香川県医師会 久米川啓理 師会長と本学 道学長が、協定書に

サインした。

この協定をもとに、高松短期大学秘書科医療事務コースは、平成三十年四月入学生から香川県医師会の医療秘書養成する外部委託教育機関となり、日本医師会認定医療秘書要綱に定めるところに準拠した教育カリキュラムをスタートさせ、四国で唯一、日本医師会認定「医療秘書」の資格が取得可能になる。卒業後、診断書の作成やカルテ代行入力などをこなす即戦力となる医師

事務作業補助者を養成する。

高松キワニスクラス ボランティア活動認証伝達式

昨年十二月二十日、高松キワニスクラブによるボランティア活動認証伝達式が開催され、本学の発達科学部の学生が中心となって、子どもたちの笑顔が見られるイベントを企画・運営・活動を行っている「げんき村」に対して、高松キワニスクラブ会長 佐野正氏より、「げんき村」



村長の発達科学部三年木村未奈さんに、ボランティアを行う次世代を担う青少年への人材育成を目的とした助成金が

授与された。認証式では「げんき村」の活動報告や、これからの連携・交流についての意見交換等が行われた。

全学共通科目「うどん学」でうどん手打ち体験

一月六日、大学全学共通科目「うどん学」を受講する学生約百四十名がうどんの手打ち体験を行った。この授業は、佃昌道学長が担当しており、



小麥粉からうどんを作るのは、ほとんどの学生が初めての体験で、講師のさぬき麺業の代表取締役社長 香川政明様から作り方を教わりながら、丁寧に作っていた。また、紅い具材を添える「年明けうどん」を、グループごとに考え、オリジナル「年明けうどん」を作成し、みんなで美味しく味わった。

学生たちはこの授業を通して、調査研究能力を高めるとともに、地域との接点、文化との接点を見つけていく。

2018 オープンキャンパス

日時 第1回 3月24日(土) 第2回 5月19日(土)
時間 10時~14時 ※無料送迎バス(要予約)、ランチサービスあり!

お問い合わせ先 入学センター ☎0120-78-5920

これまでも、「うどんの歴史、製法、材料、販売」を学び、昨年十二月に行われた「全国年明けうどん大会2017 in さぬき」にボランティアとして参加するなど、様々な角度からうどんを学習してきた。

屋島の峰々にも若葉の芽生えが見られ、春日川を吹き渡る風にも春の温かみを感じられる今日の佳き日に、ご来賓ご家族関係各位のご臨席を賜り、本学平成二十九年度学位記授与式を挙行できますことは、誠に慶びに耐えませぬ。本学教職員を代表して厚く祝意と感謝の意を表します。

ただ今、大学百九名、短期大学九十四名、大学院四名、計二百七名の皆さんが、めでたく学位記を授与されました。それは、この歴史と自然に恵まれた田園都市高松に立地する本学に集い、学部・学科により期間の長短はありますが、それぞれに学問や研究に励まれ、初志を貫徹された証であります。ここに、これまでの皆さんの



高松大学長
高松短期大学長
佃 昌道

平成二十九年度学位記授与式学長告辞

す。彼は、東京美術学校を卒業後、二年間沖繩で教鞭をとり、その後、東京美術学校に戻り、沖繩の文化財を調査して、大量の写真と記録ノートを作成しました。まさに、フィールドワークの達人であったようです。特に、写真については、先人達が築き上げた文化と長い歴史の中で形成された風景の記録であったようです。この資料は、日米の激しい戦闘があった沖繩戦で壊滅した沖繩の戦後文化の復興に活用され、特に世界文化遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の登録では、彼の資料に負うところが大きかったです。

佃 昌道

皆さんにおかれても、志を強く持ち、本学で培った調査研究力を生かし、多文化共生社会のさらなる進展充実に向かって、元気に歩みを進めることを期待するものであります。卒業後、公務員・銀行・一般企業などに進まれる経営

があつたのではないかと推察します。さて、本年度は、世界では国家や民族間の問題が複雑化しテロ事件も絶えない年でした。反面、平昌オリンピックの開催や日本最年少プロ棋士藤井聡太氏の二十九連勝記録など明るい話題の多い年でもありました。

また、ユネスコの世界文化遺産に、「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群が世界文化遺産として登録されました。世界文化遺産登録の活動目的は「文化の多様性の保護及び文明間対話の促進」であります。実は香川県には、このような活動を戦前から行っていた人物がいました。三木町出身の重要無形文化財「型絵染」保持者、鎌倉芳太郎氏で

学部・秘書科・経営学研究科の皆さん、また、小学校・幼稚園・保育所・子ども関連施設・企業などに進まれる発達科学部・保育学科の皆さん、それぞれ進む道は異なり、直面する課題も多様であると感じます。しかし、皆さんが、本学で学んだ、対話を重んじ、理論と実践の接点を開拓するという精神を忘れず、日々起こる小さなことを疎かにせず、人との絆を大切に、困難に掛けず、進取の気概を持って、自らが属している職場や地域社会の中で、自分の役割を果たし、愛され、信頼される存在となりましょう。期待して、餞の告辞といたします。

学術振興基金・学長表彰

本学では、「学術振興基金」から国際交流に参加する学生への助成や、学術・文化・スポーツなどで成果を挙げた学生を対象に「学長表彰」を行っています。



学術振興基金

団体・個人名	適用	贈与日
経営学部経営学科 藤澤陽平、水口雄太	[海外研修]「特別講義Ⅱ」インドネシア海外研修への国際交流助成	平成30年 3月6日

学長表彰

団体・個人名	適用	表彰日
ハンドボール部	[スポーツ部門] 平成29年度第56回中四国学生ハンドボール選手権大会春季リーグ戦I部準優勝	平成29年 5月26日
経営学部経営学科3年 鞍井 尚凜	[文化部門] タミヤグランプリワールドチャンピオン決定戦2016 TRF Championship 7位	平成29年 5月26日
たぬきビジネス研究会	[その他部門(地域貢献)]「第2回わかもん商店街」最優秀賞&ベストクラウドファンディング賞受賞	平成30年 2月15日

ご寄附のお願い

本学園は、教育研究活動のみならず、学園の施設設備の整備や学生、園児支援等において多大の経費を必要としています。このため、教職員一丸となって、教育改革や経営の合理化を行い、経費節減に努めているところですが、学生、園児に対する支援の充実にために寄附をお願いしています。

在学生(在園児)の保護者の皆様及び企業、団体など法人の皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

- ★募集期間 随時受付します。
- ★募集金額 一口五千円以上
- ★お申込み方法 本学のホームページもしくはお電話にてお申込みください。

誠に恐縮ではございますが、教職員、本学園卒業生(卒園生)、

★お問い合わせ先 総務部会計課
TEL 〇八七(八四)二二六(直通)

発達科学部 子ども発達学科

オータムコンサートに参加して

発達科学部子ども発達学科四年



座安 由季
私は、昨年十一月二十二日に開催された第九回オータムコンサート

トで、電子オルガンのソロ、連弾、吹奏楽、オーケストラに参加させていただきました。電子オルガンのソロや連弾では、自分の好きな曲を舞台上で演奏できる喜び、友達と二人で曲を奏でることの楽しさを感じながら演奏することができました。



吹奏楽やオーケストラでは、曲を通して一つになる一体感を味わうことができました。また、初めてヴァイオリンを弾いたり、ピアノ伴奏もさせていたなど、とても貴重な経験をすることができました。

様々な楽器や音楽に触れたりすることが出来るオータムコンサートは、自分の新たな感性に気づかせてくれました。

大学生生活を振り返って

発達科学部子ども発達学科四年



野村 育実
卒業が目前となり、四年間の出来事が日々懐かしく感じます。私

は小学校教員をめざし、二年生の頃から学内外の様々な講座に参加し始めました。面接練習では、先輩方の凛々しい姿をみて憧れを抱いたものの、自分自身は思いを言葉にできず、もがく日々でした。



また、教職に就くという自分の意思を採用試験の直前まで固められず、担当教員にいつ「夢をあきらめる」と伝えようか悩んだ時期もありました。それでも共に戦う仲間や親身になって指導いただいた先生方の支えがあり、最後までやり遂げることができました。四年間の多くの経験は大切な思い出であり、財産です。この四年間を糧に、私を待つ子どもたちに真正面から向き合える教員をめざし頑張ります。

経営学部 経営学科

就職活動と私

経営学部経営学科四年



尾崎 亜希
私が就職活動を始めたのは、三年生の十一月からです。十一月の

就活セミナーに参加した時に焦りを感じ、これを契機に就職活動を始めました。就職活動を通じ、私が大切だと感じたことは三つあります。一つ目は、「就活ノート」を作ることです。就職活動に関する情報を整理することで活動計画が立て易くなりました。二つ目は、自己分析をしっかりとすることです。自分と向き合うことで、説得力のある履歴書を作ることが出来ます。最後に、自ら足を運ぶことです。合同説明会に多く参加することで様々な気づきや発見があるはずです。就職活動は自ら動くことが大前提となります。分からないことがあれば自分から聞きに行くことが何より大切だと思います。

三年生後半の就職活動解禁の時期には、就職活動に対して不安になることも多いと思います。周りの友達や両親、ゼミの先生に相談するなどして、悔いの残らない就職活動にしてください。

この一年を振り返って 一体何が身に付いたのか

経営学部経営学科一年



竹村 葉生
昨年四月から高松で一人暮らしを始め、当たり前のことを当たり前にこなせるようになりました。また、夏頃からアルバイトを始め、経営学部の授業で習っていることを実践的に試すことが出来ました。その逆もあり、アルバイト先で習ったことも活かせるようになりました。

私がこの一年で身に付けたことは、生活力、コミュニケーション力、相手への思いやること、笑顔、そして前向きな考え方など、数えきれないくらいたくさんあります。身に付けたことをこの先もずっと活かすことができるのだと思うと、新しく学ぶことに、とてもワクワクします。今後、新しい人と出会い、新しい学問を学び、新しい考え方に触れて、私はもっと成長していきたいと思えます。



この一年で身に付けたことは、生活力、コミュニケーション力、相手への思いやること、笑顔、そして前向きな考え方など、数えきれないくらいたくさんあります。身に付けたことをこの先もずっと活かすことができるのだと思うと、新しく学ぶことに、とてもワクワクします。今後、新しい人と出会い、新しい学問を学び、新しい考え方に触れて、私はもっと成長していきたいと思えます。

探訪/研究室

発達科学部 佐竹 勝利



自己紹介

発達科学部で十年です。前職の鳴門教育大学で二十三年、その前の高松短期大学で十一年、過ごしました。専門は教育学(教職論)です。

ゼミナールの特徴

教育ゼミです。学生の関心は主に教育、保育ですが、テーマは多種多様です。学外ゼミで岬の分教場へ行きます。

ゼミ生へ一言

前向きで、簡単には諦めない、アルバイトより勉学優先(当然)、約束を守る、遅刻しない、新聞を読む、メモをずる(これらも当然) ことを期待しています。

二十歳の時の自分

馬術部に熱中し始めたころです。傷が絶えず、鍛えられました。重要な単位を落とすと休部を命じられるので、試験に備えて勉強しました。

保育学科

夢に向かった短大生活

保育学科二年 喜多 夢保



二年前の春、私たちは保育者になるという幼い頃から夢を叶える

ため、保育学科に入学しました。保育学科での二年間は、私たちにとってかけがえのない時間となりました。先生方の熱意あるご指導には心から感謝しています。まだまだ未熟者ですが、保育者になるにあたっての知識に加え、人となりを学ばせていただきました。



なが私の元気の源です。

短大生活で培った経験と全ての出会いを力に変えて、これからの一人ひとりの生活が輝くことを祈っています。

保育者をめざす高校生のための保育体験ツアー

昨年十二月二十六日に開催

した本企画も二年目を迎え、多くの高校生、そして今回からは中学生も参加し、県内の二つの保育園のご協力のもと、貴重な体験を味わった。



昨年度の参加者からの要望を取り入れ、今年度は保育園での滞在時間を延長し、

子どもたちと多くの時間を過ごすことができ、好評だった夏編に引き続いて参加した高校生も多く、五ヶ月ぶりに再会した子どもたちの成長に驚きを隠せなかったようである。

参加者はただ子どもたちと関わるだけでなく、保育者の声かけの意味、遊びの意味を教わりながら、また本学卒業生の先輩保育士からの講話に耳を傾け、保育のすばらしさを実感していた。単なる職場体験から一歩踏み込んだ本企画は、参加者にとっては将来の進路を決定づけるすばらしい機会となったのではないだろうか。

高松短期大学

秘書科

医療事務コースでの二年間の学びを振り返って

秘書科二年 木村 真由



短大に入学後、医療事務員をめざすために必要なスキルを身につ

ける、できるだけ多くの検定に挑戦しました。検定直前の集中講義では、先生方も複数でそれぞれの理解度に合わせた指導を行ってくださり、レポート点検では達成感を得ることができました。医療事務の基本となるメディカルクラークの検定だけでなく、ドクターズクラーク・医事コンピュータ・電子カルテの検定に



も挑戦し、すべて合格したことで自信につながることができました。また、授業では検定の勉強だけでなく患者様と会話する際の接し方や電話応対を学び、その学びを実習先の医療機関で実践することができてよかったと思います。就職先のクリニックでは二年間で学んできたことを生かし役立てていきたいです。

香川県立中央病院半日研修

秘書科二年 宮本 菜摘



昨年十月二十六日に、私たち医療事務コースの学生は香川県立

中央病院の見学に行きました。最初に病院の説明をお聞きし、その後、病院内を見学しました。病院では患者様の個人情報を守るため、診察室に呼ぶ際は名前ではなく番号で呼んでいることや、地域連携室という部門で連携している病院や施設の情報を提供し、患者様の要望などに応じているとお聞きし、患者様に対する心づかいが行き届いていることを知りました。また、今回はヘリポートの見学もさせていただきましたが、緊急時の対応に必要な施設であることを感じ、病院の重要性を認識することができました。



今回の見学で医療に携わる仕事への責任の重さを改めて知ることができ、今後の学業への意識がわいてきました。

探訪/研究室

秘書科 秋鹿 悦子



自己紹介

秘書科の秋鹿悦子です。

医療秘書概論、診療報酬請求事務、医療コンピュータ演習、サービス実務の講義を担当しています

学生へ一言

何事も結果のみを重視しがちですが、失敗や挫折の経験もこれからの人生に必ず力となります。不安や、戸惑いの気持ちは、貴女だけにあるのではなく皆一緒ですよ。少しの勇気を持って、恐れずに挑戦し続けましょう。

二十歳の時の自分

友達とのおしゃべりが大好きで、いつも夜中まで騒いでいました。沢山笑ったり泣いたり忙しい二十代、かけがえない時間を過ごしました。もう一度戻れるなら、絶対に二十歳の頃！

第九回オータムコンサート開催

昨年十一月二十二日、高松テルサホールにおいて、高松大学・高松短期大学第九定期演奏会「オータムコンサート」を開催した。



学内オーディションで選考された学生によるアンサンブルや独奏のほか、地域連携センターヴァイオリン教室受講生、学生等による弦楽合奏、高松大学アカデミー・ウインドアンサンブルによる吹奏楽、音楽科卒業生による女声合唱や毎年恒例の発達科学部学生有志による混声合唱を披露した。運営にも学生スタッフが活躍し、満席となったホールの聴衆を魅了した。

平成二十九年度 第二回「学生によるブックハンティング」

学生自身が読みたい本を直接書店で選ぶ「ブックハンティング」

ング」を、二月十九日、丸亀市内の大型書店で実施した。今回の企画には、第十五回書評・読書感想文コンクール受賞者の学生五名が参加した図書館で購入する本を学生が直接選ぶことで、学生の図書館利用を高めることが目的。今回参加した学生は、それぞれの専門分野に関する本や話題作など、一時間半をかけて百十一冊を選書した。学生が選んだ本は、図書館展示コーナーに並んでおり、多くの学生に読まれている。また、平成三十年度も

学生によるブックハンティングを二回開催し、第一回は六月頃を予定している。



第十三回かがわの高校生地域創生ビジネスアイデアコンテスト開催

地域産業界と連携しビジネスアイデアを提案する活動とおして、地域「かがわ」の健全で持続的な発展を担う人材を育成することを目的に、「第十三回かがわの高校生地域創生ビジネスアイデアコン



テスト」が一月六日、本学で開催された。参加五校六チームがさまざまなビジネスアイデアを発表し、最優秀賞に坂出商業高等学校の「アンテナショップ『キセレ』」の取り組み「さかいでブランドの情報発信！」が選ばれた。

コンテストで審査員を務めた本学大学院植木英治教授は「坂出商業高校アンテナショップは、坂出セキレで好評だった商品を、高松の商店街で単に並べて販売したのではなく、前もって市場調査をして、高松の人々、特に高齢者が関心を示した『塩田クッキー』に着眼し、ポップなどを通じて強くアピールして販売した。さらに、商店街を見物している外国人観光客や子どもたちに『そるとろプリン』を移動販売したりした周到な準備、坂出ブランドの周知と売上げ増加に対する熱意や工夫が特にすばらしかった。これらの点が高く評価されて最優秀賞に選ばれた。」と講評した。

第三十四回近県高等学校英語弁論大会

昨年十月十四日、第三十四回近県高等学校英語弁論大会を開催した。香川県と近県の高所学校からスピーチの部十六名、レシーションの部二十名の出場者が練習の成果を競った。優勝者は次のとおり



大学経営学部と短期大学秘書科の学生がスタッフとして補助にあっています。

【スピーチの部】

川口 佳大さん（英明一年）

【レシーションの部】

稲葉 友希さん（松山東二年）

認定こども園高松東幼稚園ニュース



「今日は何するん？」



芸術士の谷先生が絵の具を溶いたり、画用紙を切ったりしていると、年中菊組の子どもたちは楽しい事が始まると心を躍らせながら近づき、「何しよん?」「今日は何するん?」と聞きます。谷先生との付き合いも長い子は3年目になり、子どもたちにとって先生との時間は特別のようです。

谷先生の活動には「自由に」というテーマがあります。中には、この「自由に」というのが難しく感じたり戸惑ったりする子もいますが、先生は子どもそれぞれに、子どもたちは製作活動・描画活動を楽しめるものと捉えることができ、自然と自信を持って自分のイメージしたことを伸び伸び表現できるのです。



キッズアート（東幼稚園では、谷先生との活動をこう呼んでいます。）を通して、表現のテクニック（技法や手先の巧緻性など）だけでなく、楽しさを感じることも経験している子どもたちです。

高松市消防局による普通救命講習を開催



二月十三日に本学において、高松市消防局による普通救命講習を開催し、高松市消防団機能別分団「高松大学防災サポートチーム」の団員をはじめ、学生と教職員十八名が参加した。

ビデオで、①心停止の予防、②心停止の早期認識と通報、③一次救命処置、④二次救命処置と心拍再開後の集中治療の「救命の連鎖」の重要性を

学び、続いて講師から心肺蘇生法やAEDの使い方、気道異物の除去方法等の説明を受け、実技の練習をした。参加者は三時間の講習を受講し、全員に修了証が手渡された。

かがわ子ども大学高松大学 キャンパス「百人一首 学習会・修了式」開催

昨年十二月三日、かがわ子ども大学高松大学キャンパス



キラリ☆輝く人

平成29年度 高松市姉妹・友好都市 フランス トゥール市派遣親善研修生



発達科学部 子ども発達学科 2年 ナガキ 是るかさん

平成29年9月16日～26日、高松市の親善研修生としてフランスのトゥール市を訪問。小中学校で日本文化の紹介をしたり、地元の方々と交流を深めた。

「日本に対し興味津々で、何事にも取り組む国民性だと実感しました。行動しなければ何も始まらない。これを軸に夢に向かって努力していきたいです。」と抱負を語ってくれた。



の事業「百人一首学習会・修了式」を開催した。

学習会には、子ども大学生（地域の小学生四・五・六年生）が参加。

発達科学部の教員をめぐす学生が百人一首の歴史を説明し、秘書科の学生が礼儀作法の説

明と手本を示し、子ども大学生と一緒に実践。説明が終わると、子ども大学生で「ちらし取り」や「源平合戦」のゲームを行い、上位入賞者にはメダルと副賞が贈られた。

修了式では、子ども大学生代表の古高松小学校六年 辻田結咲さんに、修了証書を手渡した。

修了式後に、高松大学内にあるビオトープに移動し、ホタルの幼虫を放流した。五月

『たーちゃん新技習得！』

平成20年に誕生してから、なんとも10年が経とうとしているんだ。これまで、たーちゃんの活動と出会いのおかげで、ついにニュースタイルに変身する技を身につけたよ。

見た目はあまり変わらないけど空気を集めて、フワフワで可愛くなる新技だ。このニュースタイル、いつかお見せするね。お楽しみに！

中旬から六月上旬頃にはホタルの舞う姿が見られる予定。

これで、かがわ子ども大学高松大学キャンパスの全五回のプログラムが好評のうちに無事終了した。

古高松地区河川等 一斉清掃に参加



古高松地区住民の総意により「住みよい町づくり」、「ふれあいの町づくり」をめざして行われる河川等一斉清掃に本学も平成十六年度から参加している。

今年度の一斉清

掃は、昨年十二月三日に実施した。天候にも恵まれ、学生・教職員有志八十八名が、大学周辺の清掃活動に参加した。開始前に、藤原副学長から挨拶があり、教職員及び学生達は地域の方々と共に、大学横を流れる春日川河川敷や土手のゴミ拾い、水路の清掃活動を行った。

編集後記

☆たーちゃん紙芝居に新作「たーちゃんまるがめじょうにいく」が誕生しました。今後、発達科学部読み聞かせ隊が参加するイベント等でお披露目されます。また、ホームページから動画を視聴できますので、ぜひご覧ください。